

滋賀県立農業大学校シラバス 101

講座名	農業政策	担当	元県職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1 年 2 年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習	実験 実習	見学 実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 世界の農業情勢
2. 日本の農業情勢と政策課題
3. 滋賀県の農業施策、滋賀県農業の現状と課題

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	日本の農業と食生活の現状
第2回（4時間）	日本の農業情勢と政策課題 水田の意義
第3回（4時間）	滋賀県の農業施策及び最近の農業政策の動向と課題 海外の取り組みと新しい農業農村のとりえ方など
第4回（4時間）	滋賀県の具体的な農業政策について議論し試験対策に結びつけます。
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

日本人は日本のコメを食べ続けられるか（KAWADE夢新書）
必要に応じ追加する。

到達目標

日本および滋賀県の農業政策や施策の動きが理解できる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 試験 ○出欠状況 ○提出物の有無とその内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 102

講座名	農業経営	担当	研究生	実務経験	有	無
-----	------	----	-----	------	---	---

科目の種別	教養 <u>共通</u> 専攻	対象学生	<u>1年</u> 2年 就農
学期	前期 <u>後期</u>	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	<u>講義</u> 演習 実験 実習 見学 実技		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 個別経営のとらえ方と分析方法、農家の経済的仕組み、
農家経営のとらえ方・比較のための分析指標
2. 家族経営と企業経営の特徴対比
3. 農業経営の法人化とその意義

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	個別経営のとらえ方と分析方法、農家の経済的仕組み
第2回（4時間）	農家経営のとらえ方・比較のための分析指標
第3回（4時間）	家族経営と企業経営の特徴対比
第4回（4時間）	農業経営の法人化とその意義
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作教材・自作資料など

到達目標

農業経営の基本（マネジメント、生産管理、人的管理、財務管理、経営発展など）を理解できる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 103

講座名	農業簿記	担当	元税理士法人職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農			
学期	前期 後期	時間数（単位数）	32時間（2単位）			
授業形態（○）	講義 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農業簿記の基礎知識を習得する。 ・ 農業簿記の基礎 ・ 農業簿記の演習

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回	農 業 簿 記 に つ い て
第２回	取 引 ・ 仕 訳
第３回	取 引 ・ 仕 訳
第４回	固 定 資 産
第５回	決 算 整 理
第６回	総 合 演 習
第７回	パ ソ コ ン 簿 記 演 習
第８回	パ ソ コ ン 簿 記 演 習
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
農 業 簿 記 検 定 ３ 級 教 科 書 及 び 問 題 集 大 原 出 版	
講 師 自 作 資 料（パ ワ ー ポ イ ン ト 作 成 資 料 等）	

到達目標
○ 農業簿記の基礎知識を習得し、記帳方法に沿った記帳ができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○ 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容 ○ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 104

講座名	農産物流通	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	-------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 ☒ 共通 ☐ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期 ☐	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☐ 演習 ☐ 実験 ☐ 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

流通の現場を研修し、農産物流通の実態を学ぶ
食糧（米）流通の現場と、青果物の市場、市場外流通の現状を学ぶ

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	日本の流通事情や流通の仕組み、役割等について講義
第2回（4時間）	「米流通の現状」について講義、見学
第3回（4時間）	「青果物流通の現状」について講義、見学 「畜産物流通の現状」について講義、見学
第4回（4時間）	「花き流通の現状」について講義、見学
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料

到達目標

見学を通じて、滋賀の農産物の流通の実態を知る。
流通の仕組みと機能・役割について知る。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
○ 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価はレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 105

講座名	農産物マーケティング	担当	6次産業化 プランナー	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	------------	----	----------------	---

科目の種別	教養 ☒ 共通 ☐ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	前期 ☒ 後期 ☐	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習	☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

マーケティングの手法、ブランド化に必要な商品コンセプト、ブランディングまでの流れを学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	マーケティングの目的とポイント、具体的な手法等
第2回（4時間）	産地を取り巻く環境と消費者動向の把握
第3回（4時間）	商品コンセプトの作り方
第4回（4時間）	ブランドの強み、目線の置き方、伝え方、ターゲット等

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自主教材

到達目標

農業経営に必要なマーケティング手法、ブランド化の知識の理解。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 106

講座名	農業技術概論Ⅰ (作物・野菜)	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	--------------------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 ☒ 共通 ☐ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☐ 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	☒ 講義 ☐ 演習	☐ 実験 ☐ 実習	☐ 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)
稲・麦・大豆生産技術の概要 本県の土地利用型経営の特徴 全国および滋賀県の野菜生産の現状 野菜の生理生態と、栽培および経営に関する基礎知識

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	全国および滋賀県の野菜生産の現状、野菜の作型、種子と発芽、花芽分化、施設栽培と露地栽培の違い
第２回（４時間）	野菜栽培における土づくりと施肥、野菜の分類、野菜経営における収量や利益に関わる要素
第３回（４時間）	滋賀県農業の特徴、作物の分類、農大での取組、本県稲作（土地利用型農家）の取り組み農業の始まり
第４回（４時間）	お米の品種、稲作農家の１年（稲、麦、大豆）、土地利用型経営の特徴（園芸品目との比較）
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
自作資料：野菜の分類、野菜の生理生態、土づくりと施肥 野菜生産出荷統計、近江の野菜生産振興指針等 滋賀の農林水産業 自作資料：稲作農家の１年	

到達目標
代表的な野菜品目の全国および滋賀県での生産について理解する。 野菜栽培に関する基本的な知識や考え方を理解する。 稲・麦・大豆生産技術の概要が理解できている。 本県の土地利用型経営の特徴が理解できている。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 107

講座名	農業技術概論Ⅱ (花・果樹)	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-------------------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	☒ 講義 演習	実験	実習 ☒ 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)
花き栽培に関する基本的な作業名や作業の目的について 果樹生産技術の概要

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（２時間）	果樹の雑学・豆知識
第２回（２時間）	花きの雑学・豆知識
第３回（２時間）	花・果樹研究部における最新研究の現状
第４回（２時間）	花・果樹研究部における最新研究の現状
第５回（２時間）	全国における滋賀県果樹農業の現状・特徴
第６回（２時間）	全国における滋賀県花き農業の現状・特徴
第７回（２時間）	滋賀県果樹農業における各品目の現状・特徴
第８回（２時間）	滋賀県花き農業における各品目の現状・特徴
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
自作資料	

到達目標
花き・果樹栽培への関心を高めつつ、本県花き・果樹農業の現状および課題、今後の展開方向について理解を深める。また、花・果樹研究部を見学することで、本県における研究の現状を知る。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 108

講座名	農業技術概論Ⅲ (茶・畜産)	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	-------------------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	☒ 講義 演習 実験 実習 ☒ 見学		

科目内容(教育研修計画より転記も可)
茶・畜産に関する基本的な作業や作業の目的について。 茶・畜産技術の概要

授業内容(4時間を1回分とした内容)	
第1回(4時間)	畜産技術振興センターの施設概要と最新研究の現状
第2回(4時間)	茶業指導所における最新研究の現状
第3回(4時間)	滋賀県の畜産における現状・特徴 畜産の雑学・豆知識
第4回(4時間)	滋賀県の茶業における現状・特徴 茶の雑学・豆知識
使用教科書(テキスト)書籍名、自作資料の内容を記入	
自作資料	

到達目標
茶・畜産への関心を高めつつ、本県茶・畜産の現状および課題、今後の展開方向について理解を深める。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 109

講座名	農業機械（学科）	担当	農大職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	----------	----	------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 見学 実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 農業機械と農作業－意義と役割
2. エンジンの基礎知識
3. トラクタの構造と機能
4. 主要農業機械の構造と機能
5. 整備と安全作業

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	耕運整地用機械の構造と作業方法
第2回（4時間）	農業用機械の構造と作業方法
第3回（4時間）	農作業安全
第4回（4時間）	畑作用機械の構造と作業方法、乾燥調製施設の構造

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・「新版 農業機械の構造と利用」藍房和他著
- ・その他持込み資料

到達目標

- ・農業生産や農業経営などで必要となる知識の一環として、各専攻コースで主として利用される農業機械や施設の概要について理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 110

講座名	農業機械（実技）	担当	農大職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	----------	----	------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習	実験 ☒ 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

大型特殊自動車（農耕用トラクタ）の特徴を知り、安全な運転操作を学ぶ。
大型特殊免許の取得およびけん引式作業機の操作を学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	トラクタの基本構造の理解と安全な運転方法（大特免許取得に向けて）・運転実技
第2回（4時間）	トラクタの運転実技（合図、確認、進路変更）
第3回（4時間）	トラクタの運転実技（コース走行）
第4回（4時間）	トラクタの運転実技（校内試験）
第5回（4時間）	けん引の構造と運転操作、運転実技（後進時の操作）
第6回（4時間）	けん引の運転実技（方向転換）
第7回（4時間）	けん引の運転実技（コース走行）
第8回（4時間）	けん引の運転実技（校内試験）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料・トラクタ基本研修・けん引研修

到達目標

・大特農耕用免許取得およびけん引免許取得を目指す。また、安全にトラクタ作業ができるようトラクタの構造を理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○出欠状況 ○受講態度 ○免許取得状況

評価基準

出席および受講態度、免許の合格状況も判断材料に総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 111

講座名	土 壌 肥 料	担当	県 農 業 技 術 職 員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1 年 2 年 就農			
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1 単位）			
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 1．土 壌 の 性 質 と 作 物
- 2．農 地 土 壌 の 特 徴 と そ の 管 理
- 3．土 壌 の 保 全 と 土 壌 診 断

授業内容（4 時間を 1 回分とした内容）

第 1 回（4時間）	土 壌 の 性 質 と 作 物 他
第 2 回（4時間）	土 壌 診 断 と 要 素 欠 乏 ・ 過 剰 症 他
第 3 回（4時間）	肥 料 の 必 要 性 と 種 類 他
第 4 回（4時間）	土 づ く り と 施 肥 、 環 境 他
第 5 回（4時間）	
第 6 回（4時間）	
第 7 回（4時間）	
第 8 回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○ 図 解 で よ く わ か る 土 ・ 肥 料 の き ほ ん

到達目標

- 土 壌 の 性 質 や 土 壌 中 の 有 機 物 の 役 割 に つ い て 基 礎 的 な 知 識 が 身 に つ い て い る。
- 農 地 土 壌 の 特 徴 や 管 理 に つ い て 基 礎 的 な 知 識 が 身 に つ い て い る。
- 土 壌 の 保 全 や 土 壌 診 断 に つ い て の 基 礎 的 な 知 識 が 身 に つ い て い る。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記 述 テ ス ト ○ 出 欠 状 況 ○ 提 出 物 の 有 無 と 内 容
- 授 業 態 度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 112

講座名	気象と農業災害	担当	元高校教員（農業）	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	---------	----	-----------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 気象概論と滋賀の気象 ○ 気象災害と対策
- 気象情報の入手と活用

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	気象概論と滋賀の気象
第2回（4時間）	彦根地方気象台見学研修
第3回（4時間）	気象災害と対策
第4回（4時間）	気象情報の入手と活用

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

気象庁の気象・気象災害の資料、自主教材 等

到達目標

滋賀県の気象の特徴を把握し、農業における気象災害を予見するとともに必要な対策を講じることができる。また、獣害を防ぐ方法について基本的な知識を身につける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物（現地研修レポート）
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 113

講座名	農薬概論	担当	研究所顧問	実務経験	☒ 有 ☐ 無
科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農		
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 農薬を理解するための化学知識の習得
2. 農薬およびその使用に関する基礎知識の習得

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（2時間）	農薬とは，農薬の安全性（1）
第1回（2時間）	農薬とは，農薬の安全性（2）
第2回（2時間）	農薬の発達と変遷，農業生産における農薬の役割（1）
第2回（2時間）	農薬の発達と変遷，農業生産における農薬の役割（2）
第3回（2時間）	農業用殺菌剤の種類と概要（1）
第3回（2時間）	農業用殺菌剤の種類と概要（2）
第4回（2時間）	殺虫剤，除草剤，植物生育調節剤の種類と概要（1）
第4回（2時間）	殺虫剤，除草剤，植物生育調節剤の種類と概要（2）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○ 毎回プリントを配付する。参考図書も講義の中で適宜紹介する。

到達目標

- 農薬の定義，農薬の安全性について理解することができる
- 農薬の発達と変遷，農業生産における農薬の役割について理解することができる
- 農業用殺菌剤の種類と特性について理解することができる
- 殺虫剤，除草剤，植物生育調節剤の種類と特性について理解することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は，講義を主とする科目であることから，評価は筆記試験やレポート等の成績のほか，出席日数，受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により，50点以上を合格とし，50点未満を不合格とする。なお，成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について，本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし，追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 114

講座名	6次産業化農業	担当	大学教員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	---------	----	------	---

科目の種別	教養 ☒ 共通 ☐ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	後期	時間数(単位数)	16時間(1単位)
授業形態(○記入)	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 ☒ 見学

科目内容(教育研修計画より転記も可)
1. 6次産業化の意義 2. 農産加工の実際・製造現場 3. 加工・直売上の注意事項(表示、生産管理工程等) 4. 事例研修および講演 5. 視察

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1回（4時間）	6次産業化の意義（先駆的農業経営＝攻めの農業） ケースメソッド
第2回（4時間）	加工品開発の実際（品質管理・衛生管理等） 先駆的経営者に学ぶ
第3回（4時間）	グループワーク（6次産業化事業計画の検討策定） プロセスの理解販売と生産のバランス事業計画の発表と診断（実現可能性・組織体制）おもてなしの精神
第4回（4時間）	視察

使用教科書(テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入
自作資料: 「攻めの農業の推進者たれ!」「農産物流通とマーケティング」 「総合化事例から学ぶ」「農業経営の多角化」「総合化事業計画作成演習」 「アグリビジネスとおもてなし」

到達目標
座学・ケースメソッド・グループワーク(PBL手法)を通じて多様な考え方を修得し、事業計画演習によりマーケティングプロセスを理解することで、実際の農業経営に反映できる。

評価で重視する内容(テスト・レポート等の有無、その他(授業態度・出欠))
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 115

講座名	特殊技術学習	担当	農大職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 基礎化学の習得
2. 危険物取扱者（乙種4類）資格取得に必要な知識の習得

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	危険物に関する法令、校内危険物施設を実際に見て学ぶ
第2回（4時間）	危険物に関する法令、模擬試験
第3回（4時間）	危険物に関する法令、危険物の性質並びにその火災予防及び消火の方法、模擬試験
第4回（4時間）	基礎的な物理学及び基礎的な化学、模擬試験

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

乙種第4類危険物取扱者合格テキスト&問題集（高橋書店）

自作資料：各回のまとめ

模擬試験のプリント

到達目標

- 基礎的な化学の知識が習得できている
- 危険物取扱者（乙種4類）資格取得に必要な知識の習得ができている

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○ 出欠状況 ○ 授業態度 ○ 試験

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は試験等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 116

講座名	労働衛生	担当	理学療法士	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	-------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 <u>共通</u> 専攻	対象学生	<u>1年</u> 2年 就農
学期	前期 <u>後期</u>	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	<u>講義</u> <u>演習</u>	実験 実習	見学 実技

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- 1．農業労働の特徴
- 2．農作業安全と作業環境の改善
- 3．労働設計の樹立

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	労働におけるけが・疲れ
第2回（4時間）	熱中症、労働での身体負担
第3回（4時間）	腰痛・肩こり、振動、騒音
第4回（4時間）	労働安全実地実習

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作教材・自作資料

到達目標

労働衛生について理解を深めるとともに、安全衛生の基本的な事柄を自分で説明できる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 117

講座名	情報処理Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	-------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. データ整理と図表作成
2. プレゼンテーション用ソフトの利用技術
3. 情報リテラシーについて

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	データ収集と活用（表・グラフの作成）
第2回（4時間）	データ収集と活用（表計算の利用）
第3回（4時間）	効果的なプレゼンテーションの実践
第4回（4時間）	情報リテラシーの向上

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料：

- ① 表・グラフを活用したレポートの作成
- ② 2軸のグラフ作成
- ③ 統計・論理関数を活用したデータ整理
- ④ プロジェクトスライド様式作成

使用資料：総務省ICTメディアリテラシー教材

到達目標

- ① 表・グラフを活用したレポートが作成できる。
- ② 生育データ等の集計に表計算ソフト（関数等）が活用できる。
- ③ プレゼンソフトによって、見やすい発表用スライドが作成できる。
- ④ 情報リテラシーについて理解している。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容 ○ 授業態度

評価基準

本講座は、演習を主とする科目であることから、評価は提出物、レポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 118

講座名	環境と農業	担当	大学教員	実務経験	有	無
-----	-------	----	------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）			
1. 食の安全と農業	2. 資源循環型農業のあり方と展開方向		
3. 滋賀県の環境と農業技術（環境こだわり農業）			
4. 獣害対策			

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1回（4時間）	I. 地球温暖化について
第2回（4時間）	II. 農業による環境汚染 II-1. 食の安全と農業食料自給率の現状
第3回（4時間）	II-2. 農業生産による環境汚染 資源循環型農業のあり方
第4回（4時間）	III. 獣害対策について
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
講義の中でプリントを配布する。	

到達目標
地球温暖化（気候変動）に対する理解を深めるとともに、地球温暖化と農業との関係、農業が環境汚染の加害者と被害者の両面を有していることを理解しながら、農業が環境保全に貢献する産業となるための環境保全指針について理解と知識を深めることを目標とする。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 119

講座名	みどり戦略Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

みどりの食料システム戦略の概要と取組について学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	1 みどりの食料システム戦略の概要 2 取組事例研究（検索）
第2回（4時間）	1 有機農業の取組状況と課題について 2 県内での水稻・茶の栽培について
第3回（4時間）	1 土づくりと有機物（堆厩肥）の活用について 2 耕畜連携について 3 緑肥作物の栽培と活用について
第4回（4時間）	1 環境負荷低減の取組 2 農業における温室効果ガス削減の取組について 3 カーボンクレジットについて

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料等

到達目標

みどりの食料システム戦略の考え方と農業における環境負荷削減技術、有機栽培の現状と課題について理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 120

講座名	みどり戦略Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

みどりの食料システム戦略に基づく水稻（有機）栽培等について学ぶとともに、先進農家の取組事例を見学する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	1 みどりの食料システム戦略の概要 2 有機栽培の実際（緑肥作物のすきこみ）
第2回（4時間）	1 有機農業の実際（田植）（米ぬか除草） 2 有機栽培による施肥体系について
第3回（4時間）	1 有機栽培の実際（機械除草） 2 病虫害防除（IPM）について
第4回（4時間）	1 有機栽培の実際（生育状況確認・穂肥施用） 2 有機栽培実践者の見学

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

到達目標

みどりの食料システム戦略の考え方に基づく水稻の有機栽培について理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 120

講座名	スマート農業	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

農業就業人口の減少や農作業従事者の高齢化に伴い、農業の超省力化や高品質な農産物の安定生産等が求められている。そこで、それらを可能にする農業分野での新たな技術として近年注目される、農業でのドローンの活用、クラウド型農業管理システム、環境制御ハウスや自動運転トラクターといったスマート農業についての理解を深める。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	スマート農業の推進施策等と農業新技術の製品・サービスについて（講義）
第2回(4時間)	スマート農業に取り組む園芸農家について（講義見学）
第3回(4時間)	スマート農業に取り組む土地利用型農家について（講義見学）
第4回(4時間)	ドローンやアシストスーツ、データログなど スマート農業技術の体験（講義演習）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

農機メーカー商品カタログ 等
農業新技術 製品・サービス集（農林水産省）
スマート農業オンライン教材（農林水産省）

到達目標

○スマート農業の基礎知識を学び、各専攻分野での先端技術の見学や演習を通じ、省力化や高品質化に向けた取組への理解が深まる。
○スマート農業技術を導入した先進的農業者の営農事例を学び、就農意欲を高める。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 121

講座名	農業生産管理	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有 ☐ 無
-----	--------	----	---------	------	--

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 ☒ 演習	実験	実習 ☒ 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

G A P 演習（作業行程確認、リスク評価、改善策検討、手順書作成など）を通じて農業生産管理の基礎を習得する。また、ICTを活用した生産履歴の管理や経営改善手法について学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	G A P 認証の仕組み メロンのリスク評価の説明と深化に向けた演習
第2回（4時間）	各専攻の生産改善のための演習 ① 現状把握（作業行程確認、リスク評価） ② 改善策の検討、手順書等の作成、改善の実施
第3回（4時間）	各専攻の生産改善のための演習 ① 改善策のまとめ、発表準備 ② 発表と評価
第4回（4時間）	先進的な取り組み生産者の見学：浅小井農園等 ICTによる農業生産管理

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料：G A P の基礎知識、G A P 認証について、危害要因とリスク評価演習用のフォーム、ICTを活用した農業生産管理とデータに基づいた経営改善など

到達目標

食品安全や労働安全に対する意識が向上し、GAPに取り組む意義や目的を理解する。危害要因のあぶり出し→リスク評価→改善策の実行→再評価というサイクルに取り組む力が身につく。

GAP認証の仕組みを理解し、認証の継続取得にむけた準備ができる。

ICTを活用した農業生産管理手法の利点について知識が深まる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 123

講座名	複合経営・多角経営	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-----------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 <u>共通</u> 専攻	対象学生	<u>1年</u> 2年 就農
学期	前期 <u>後期</u>	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	<u>講義</u> <u>演習</u>	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 土地利用型（水田）農業の成り立ちおよび経営の発展
2. 複合経営・多角経営の取り組み状況
3. 複合化の技術

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	1 農業経営の基本（経営資源、所得向上策） 2 年間生活費と所得目標 3 経営の複合化と多角化（定義）
第2回（4時間）	1 県内農家の取り組み状況、複合化および多角化（直売、契約、観光、加工、輸出） 2 複合経営・多角化の経営類型の特徴(複合イチゴと単作イチゴ)
第3回（4時間）	1 複合経営・多角化の経営類型の分析 経営ハンドブックの経営類型の比較
第4回（4時間）	1 土地利用型（水田）農業の成り立ちおよび経営発展 圃場整備、転作の経過、稲作経営の発展方向 （効率化、複合化、多角化）

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

滋賀農業経営ハンドブック 抜粋、農業体験学習Ⅱ報告書

到達目標

複合経営・多角経営の現状が理解できている。
農業経営の成り立ち（経営類型）を理解する。
土地利用型経営の発展に向けた効率化・複合化・多角化について理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 124

講座名	農業機械実習	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

主要な農業機械について基本操作の手法を学ぶ。

＊第1～3回は前期、第4～8回は後期に実施する。

一部農業機械は各専攻主体に実施する。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	小型特殊自動車（運搬車、SS）の構造、安全な運転方法
第2回(4時間)	防除機、動力散布機の構造、正しい操作方法
第3回(4時間)	刈払機、ハンマーナイフモアの構造、安全な除草方法
第4回(4時間)	コンバインの構造、操作方法。乾燥施設の仕組みと作業
第5回(4時間)	トラクタによる耕起作業
第6回(4時間)	耕耘機、管理機の操作方法
第7回(4時間)	ホイールローダー、バックホーなど特殊機械の操作方法
第8回(4時間)	農作業安全、農業機械作業のリスク管理

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料
各機械取扱説明書 他

到達目標

農作業に必要な農機具の安全な操作方法の習得

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

☐授業態度 ☐出席日数

評価基準

本講座は、実習中心の科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 124

講座名	基礎実習	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	128時間（4単位）
授業形態（○記入）	講義	演習	実験 ☒ 実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
農業に関する技術を総合的に体験させ、農業者としての基礎的資質向上を図る。なお、必要に応じて、茶や畜産の基礎実習の習得を組み合わせることもある。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	水田農業にかかる栽培に関する基礎技術の習得
第9～16回 （32時間）	野菜の栽培に関する基礎技術の習得
第17～24回 （32時間）	花きの栽培に関する基礎技術の習得
第25～32回 （32時間）	果樹の栽培に関する基礎技術の習得
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
自作資料	

到達目標
農業にかかる基礎的な技術が体験できる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 125

講座名	農業体験学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	---------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

先進農家において農作業を体験し、現場での農業技術やその経営感覚を学ぶとともに協調性と社会性の育成を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1・2回 （8時間）	近隣の先進農業者（1件目）における農業の体験
第3・4回 （8時間）	近隣の先進農業者（1件目）における農業の体験と経営内容等のヒアリングなど
第5・6回 （8時間）	近隣の先進農業者（2件目）における農業の体験
第7・8回 （8時間）	近隣の先進農業者（2件目）における農業の体験と経営内容等のヒアリングなど

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

農業者の実際の経営感覚が体験できる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○授業態度 ○出席日数

評価基準

本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 126

講座名	農業体験学習Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	---------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 ☒ 共通 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	320時間（10単位）
授業形態（○記入）	講義	演習	実験 ☒ 実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
先進農家において2か月間地域農業の実態に接し、農業技術やその経営感覚を学ぶ。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～80回 （320時間）	指導農業士等における実際の農業技術および経営感覚の習得
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
農業者の実際の農業技術や経営感覚を習得する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。